

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292000015		
法人名	有限会社 グループホーム逢々		
事業所名	グループホーム逢々		
所在地	青森県東津軽郡蓬田村大字瀬辺地字山田1番地28		
自己評価作成日	平成27年6月25日	評価結果市町村受理日	平成27年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者がよりホームに馴染めるように家庭的な雰囲気づくりを心がけ、家族や地域の方々や面会や遊びに来やすいように声かけ等を行っている。</p> <p>また、全体的に介護度が高くなってきている中でも、少しでも楽しみを持ち、笑顔のある暮らしを送れるように、ホーム内のイベントや外出を企画しており、利用者に種植えや鉢植えをしてもらった花のプランターを中庭に置き、水やりをしていただいたり、また、ホーム内の装飾物の作成をしていただく等、アクティビティーに力を入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは地域と関わり合うことの大切さを理解しており、地域行事である村民祭への参加や案山子ロードへの出展等、理念にも掲げている地域交流に努めている。</p> <p>利用者の介護度が高くなるにつれて、意思の疎通が難しくなる傾向にあるが、担当職員が中心となり、きめ細やかな支援に努めている。</p> <p>また、毎月家族に送付する手紙でも、担当職員より、利用者の日々の暮らしぶりについて詳細に報告されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい所に太文字で書かれた理念を掲示している他、週1回の朝礼で唱和し、職員全員への周知を図っている。また、月1回のカンファレンス時や個人面談時に、理念に基づいたケアを実践しているかを話し合っている。	職員間で共有することは勿論、来訪者等の目にも触れるよう、ホーム内数ヶ所に理念を掲示し、理念に基づいたケアの実践に努めていることを明示している。職員は定期的に理念を唱和したり、話し合いの機会を設け、理念に込められた思いを確認しながら、日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の老人クラブや婦人会、地域の保育園に協力を求め、行事に参加していただいている。また、村の行事にも積極的に参加するようにしている。	ホームの納涼祭にはバンド演奏や食べ物の出店等があり、地域住民の交流の場となっている他、役場主催の村民祭に参加して、ホームの説明や介護関連の情報を提供している。また、日頃から地域住民と挨拶を交わしたり、旬の野菜や魚等の差し入れをいただく等、地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村民祭という村の行事に参加し、地域の方々に事業所の取り組みや、気軽に相談ができることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて利用者の様子やサービス提供について報告等を行い、相談や協力依頼、意見交換の場として活用している。また、職員も参加しているため、現状を把握しやすく、日々のケアに活かせるように取り組んでいる。	事前に開催日を決めて、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、利用者の生活状況や行事等の報告を行っている他、参加メンバーから地域の情報等をいただいている。また、会議では自己評価及び外部評価結果の内容を具体的に説明し、メンバーから出された意見も参考にしながら、サービスの質の確保、向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最低でも月に1回は役場へ行き、利用者の入所状況等の報告をしている。その他、運営推進会議にも参加していただいたり、電話での相談、報告も密にすることで、協力関係を築けるように取り組んでいる。	運営推進会議には役場の担当課職員や地域包括支援センター職員の参加を得ており、ホームの状況を把握していただいている。また、職員は月に1回は必ず役場に出向き、ホームの実情を報告している他、役場内にはホームと行政との連絡ボックスもあり、随時、様々な情報をいただけるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束マニュアル」を設置し、周知徹底を図っている。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、年1回は勉強会を行ったり、研修への参加や資料の配布等を通じて、全職員が身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。日中、玄関は施錠せず、利用者の自由な暮らしを支援しており、ホームの構造上死角になる場所には鏡を取り付けたり、職員間で協力して見守りを行い、利用者の外出傾向を把握できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止マニュアル」を設置している他、勉強会を開き、絶対に虐待が起きないように職員全体で努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての資料を配布したり、研修に参加させ、職員全体で理解できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に、重要事項説明書に沿って説明を行っている。その際、疑問に思う事や不安な点等がないか尋ね、納得の上で契約を結んでいただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との毎日の関わりの中から意見を聞く他、玄関に意見箱を設置したり、カンファレンス時に意見や要望を聞いている。また、家族面会時にも意見を汲み取るようにしている。	日々の関わりの中で利用者の意見等を察するように取り組んでおり、利用者同士の不仲や食事の席替えの希望があった時等、全ての利用者が常に気持ち良く過ごせるよう、速やかな対応に努めている。また、重要事項説明書にホーム内外の苦情相談窓口を明記している他、玄関にポスターも掲示し、利用者や家族が外部へ意見等を出せるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やカンファレンスで意見や提案を聞く他、個人面談も行っており、個人的な意見等も聞くようにしている。	毎日の申し送りや毎月のカンファレンス等、日頃から、運営に関する職員の意見の聞き取りに努めている。また、年1回、個人面談も行っており、業務に関する意見や提案の他、異動や休暇等を含むプライベートな話についても職員の意見を聞く機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを活用し、個々の目標意識、向上心を高められるようにしている。また、介護職員処遇改善加算の配当をキャリアパスに連動させることで、よりやりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの活用の他、社内勉強会を開き、職員の知識や技術の向上に努めている。また、1年を通して、職員全員が外部研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の交流会に参加するように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要に応じて介護支援専門員が利用者の自宅や医療機関を訪問し、本人と面談をして、相談対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて介護支援専門員が利用者の自宅や医療機関を訪問し、家族と面談をして、相談対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が相談を受け、必要に応じて、その他のサービスの利用も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝いをしていたり、昼食を一緒にとり、家庭的な雰囲気を作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスに家族と職員も参加し、利用者を共に支えていけるように話し合いをしている。また、行事へ家族の参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容店等の利用を通じて、関係が途切れないように支援している。また、電話のやり取りや訪問等で交流ができるように努めている。	利用者や家族の意向を聞き取り、墓参りや帰宅、選挙の投票等に出かけられるよう、家族の協力も得ながら支援している。電話の際は周囲に気兼ねすることがないよう、子機を利用して居室で話している他、面会はホールや居室等、希望する場所で楽しい時間を過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で作品を作ったり、体操や軽作業を促して、自室にこもりがちにならないようにしている。また、利用者の関係性を把握しながら、テーブルの座席位置を変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も様子を伺ったり、家族が相談に来た際にはいつでも対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを通し、一人ひとりの思いや希望に沿った生活を送れるように努めている。	家族からの聞き取りや利用者との会話、しぐさ等を観察して、利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。また、必要に応じて医療関係者からも情報収集し、職員の気づきも話し合いながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中から得た情報や家族からの情報収集により、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送り、月に1回の職員全体でのカンファレンスにて、利用者一人ひとりに応じたケアについて意思統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見やアイデアを取り入れて、個別具体的な内容の支援ができるように努めている。	利用者と1対1になる機会を設ける等、可能な限り利用者の意見を聞くように努めており、個別具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。また、見直しを行う際は、利用者や家族の意見等を確認し、必要に応じて協力病院の医師やホーム看護師の気づき等も収集しながら、再アセスメントを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に本人の様子や援助内容を記録し、大事な点は分かりやすいように、申し送りノートや業務日誌へ記入する等により、情報を共有している。介護計画の見直しの際は、記録を参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や移送等のサービスで別途料金をいただくことはしていないが、可能な限りニーズに応えられるように努めている。また、家族との連絡を密にし、施設と家族と共同してニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急避難時や無断外出等が発生した場合に協力を得られるよう、地域の方々や駐在所へ働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ受診できるように努めている。また、事業所の協力病院へ依頼する時は、必ず紹介状をいただくようにしている。	入居時に聞き取りを行い、これまでの受療状況を把握している他、入居後の受診についても確認を行っている。また、協力病院の月1回の往診がある他、利用者や家族の意向により、かかりつけ医への継続受診ができるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝と夕に、その日の利用者の様子を介護職員から介護支援専門員、看護師に報告し、体調管理に努めている。変化がある場合や疑問がある時は、協力医療病院の医師や看護師に相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療病院と毎月、医療連携会議を開き、利用者についての情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応の実績はこれまでないが、看護師が配置されたことで、今後は看取りの指針に基づき、協力医療病院や家族との連絡、連携を強化しながら対応していく。また、職員研修等で重度化した際の対応を強化していく。	「重度化した場合における対応に係る指針及び看取りに関する指針」を作成しており、職員間で勉強する機会を設けている。今後、医療面で万全な体制を構築できるよう、前向きに対応する方向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急手当について、勉強会や救急隊に依頼しての救急救命講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っており、職員は全員参加するよう促している。また、災害時、消防や警察、役場等の協力が得られるように、運営推進会議の場でも議題に挙げている。	年2回、避難訓練を行っており、運営推進会議のメンバーを介して、訓練への参加や災害発生時の協力を働きかけている。また、消火器や非常灯、スプリンクラー等の設備点検も年2回、業者委託で行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者に合わせた対応を行い、人格やプライバシーを尊重したケアが行われるように努めている。利用者の言動を否定しないようにし、受容と共感を重視してケアに臨んでいる。	職員は介助時のいかなる場合においても必ず声がけし、利用者の反応や意思を確認した上で次の行動に移すように努めている。また、接遇マニュアルを作成して勉強する機会を設けたり、日々のケアの中で不適切と思われる言動があった時等は職員同士で声をかけ合う等、より良いサービス提供のために取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせた説明の方法を心がけている。意思表示が難しい利用者に対しても、できる限り自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の睡眠パターンや食事時間等、極力その人のペースを尊重して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は本人に希望を尋ね、好みの装いができるように支援している。また、季節や気候に合った装いができるように、さりげなく声がけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に昼食をいただき、楽しい食事を心がけ、同時に利用者の嗜好も把握するように努めている。また、利用者はできる範囲で準備や片付けを行っている。	利用者の嗜好を把握して職員が交代で献立を作成しており、苦手な物等には代替食を用意している。また、利用者は可能な範囲で山菜の皮むき等を手伝っている他、職員も同席して同じ食事を摂り、利用者が楽しく食事時間を過ごせるようさりげなくサポートをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し、把握している。また、利用者の習慣や状態に合わせて、食事形態の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりのタイミングをみて、口腔ケアの声がけをしている。また、個々の能力、口腔状態に合わせて介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録して把握することで、前もって声がけを行い、失敗のないように排泄援助を行っている。	利用者個々の排泄パターンを記録・把握しており、介助時は利用者の羞恥心に配慮している。また、排泄用品の変更が必要と思われる時は、申し送りやカンファレンスで話し合いを行い、利用者や家族の意向を確認した上で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況については常に量や性状、回数等の把握に努め、積極的な水分摂取やレベルに応じた運動の促しをしている。また、主治医に排便状況を伝え、必要時は薬物での排便コントロールを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は週に2回と決まっているが、希望があったり、必要がある場合はいつでも入浴可能となっている。	基本的に週2回の入浴日を設けているが、利用者の状況や希望に応じて、いつでも入浴可能な体制を整えている。また、長湯や熱い湯を好む方には砂時計を利用して、目で見て納得していただきながら、体調に支障がないよう適切な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や習慣に応じて、休息したり、夜間に安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人記録内に、個々の服薬内容が分かるように薬のしおりを入れている。また、処方内容が変わった時等は申し送りノートへ記入し、職員全員の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭の花へ水やりをしたり、天気の良い日は近くを散歩する等、楽しみや気分転換となる支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調に合わせ、散歩等の援助を行っている。また、毎月の行事の中で、普段行けない場所へも外出できるように企画している。	天気の良い日は、できる限り周辺への散歩や中庭のプランターの手入れ等を行っていたり、利用者が季節の移ろいを肌で感じ、気分転換ができるように支援している。また、季節毎の外出行事を行う際は、利用者の希望も参考にしながら行き先を決め、家族にも事前にお知らせして参加を呼びかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、お金の管理をしてもらっている。利用者が支払いをする時は見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける際は子機電話を渡す等して、プライバシーに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように、壁に装飾をする工夫をしている。音、光、温度にも気を配り、快適に過ごせるように努めている。乾燥が気になる時は洗濯物を干したり、加湿器や霧吹きで対応している。	職員の立てる作業音や声は騒がしくなく、テレビや音楽の音量もその都度調整している他、ホーム内の陰になる部分は照明で適度な明るさを保ち、快適な空間づくりに取り組んでいる。また、ホールの壁には季節毎の手作りの作品がたくさん飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、日中は共用空間で過ごせるように工夫している。また、各ユニット間でも自由に行き来できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、利用者の馴染みの物を持ってきてもらうように声かけをしている。また、本人の意向に合わせ筆筒やベッドの位置を変える等、居心地良い空間づくりに努めている。	慣れ親しんだ物を持ち込んでいただくように働きかけており、居室には利用者のお気に入りの品々や写真等が飾られている。また、随時、利用者の希望や心身状態に合わせて、居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等、利用者が混乱しそうな箇所には分かりやすい表示をしている。		